

I 実践

1 研究主題

互いを認め合い、思いやりや助け合いの心を育てる人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校では、「かがやきプロジェクト」として、3本柱を中心に児童の指導に当たっている。その3本柱とは、「元気UPプロジェクト」「学びUPプロジェクト」「笑顔UPプロジェクト」である。その中でも、人権教育に関係が深いのは、「笑顔UPプロジェクト」である。児童の心を豊かに育むための活動として、あいさつ運動の推進、豊かな体験を通じた実践的な道德教育の充実、望ましい集団活動を通じた特別活動の充実、特別支援教育の充実などが挙げられる。これらの教育活動を通して、一人一人がお互いの良さを認め合い思いやりの気持ちをもって、ともに助け合うことのできる児童を育てたいと考えた。

また、水木地区は、古い歴史があり、地域の人も伝統を重んじる気持ちが強い。地域の方々や保護者は、地域の歴史を大切にしている。そこで、児童一人一人が心を通わせ、助け合いながら新しい伝統を築いてほしいと願い、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 人権意識を育む体験活動
- イ 地域の行事への参加
- ウ 人権に関する啓発活動

2 実践内容

(1) 人権意識を育む体験活動

ア 中学校やPTAと連携したあいさつ運動

本校では毎朝、生活委員会の児童と教職員が昇降口付近に立ち、登校してくる児童にあいさつ運動を実施している。生活委員会の児童が、大きな声で元気にことばをかけるので、あいさつが苦手だった児童も少しずつ元気にあいさつが返せるようになってきている。また、学期ごとにマナーアップ週間の時期に合わせて泉丘中学校の生徒やPTAの役員と連携したあいさつ運動を展開し、効果をあげている。



あいさつ運動

イ いじめ0(ゼロ)集会

児童集会で、毎年実施している。いじめがなぜいけないことなのか、自分がいじめをされたらどうするか、いじめを目撃してしまったらどうするかなどを、各学年の発達段階に応じて学級で話し合う。集会では、「いじめをしない」という誓いを立て、「いじめ0」シールを胸章の裏に貼る。学級ごとに話し合っただけで決めた「いじめのちかい」を発表する。集会後、自分の決意を『めばえノート』に記入し保護者にも伝える。



いじめ0集会

さらに、学校だより、学年だより、生徒指導だよりなどで「いじめ0(ゼロ)運動」の取り組みの様子を保護者に知らせ、理解啓発を図っている。

ウ のびのびタイム<縦割り異学年交流>

月に1回程度、ロングの昼休みに1年生から6年生まで縦割り班で交流する活動である。6年生が班長になり、事前に班長会議を実施して遊ぶ内容を決めている。それぞれ13班に分かれた班ごとに、ドッジボールや大縄、リレー、鬼ごっこ、昔遊びなどを実施している。

6年生が中心になり、整列の仕方や遊び方などを下級生に優しく教え、交流を深めている。異学年との交流する機会を得て、高学年のリーダーとしての意識が芽生えたとともに、普段外遊びが苦手な子どもたちも自然に溶け込み、



縦割り班交流

異学年と遊ぶ楽しさを感じる時間となっている。

エ 地域との交流

運動会で、毎年4年生が中心となって高齢者との競技種目『じゃんけん列車』を実施し交流の場としている。また、地域の9月の敬老会では、全校児童が高齢者の方々へ手紙を出して交流している。また、敬老会や10月の水木秋祭りでは、学校の代表として3年生や4年生が『水木っ子ソーラン』の発表で参加し、地域の方々との交流を深めている。



敬老会

オ 5年生宿泊学習「里美民泊」

5年生の行事の1つとして、宿泊学習の際に里美地区で農業体験を実施している。里美の地域の宿泊学習でお世話になる家庭の方々とは、1学期から手紙などを通じて交流を続け、宿泊学習終了後も感謝の気持ちを綴ったお礼の手紙を送ったり、かかし祭りへ参加したりして、年間を通して、交流が続いている。児童にとって、宿泊学習での多くの貴重な経験は、人への愛着心、地域への郷土愛となり、児童にとって一生忘れられない貴重な思い出のひとつとなっている。



農業体験

(3) 人権に関する啓発活動

ア 「人権メッセージ」の実施

夏休みの課題として人権メッセージを募集した。「人権メッセージ」は、児童が人権について考えるきっかけとなる有効な方法である。自分なりの考えや思いを自分のことばで表現することで、人権意識が高まっていくと考えられる。

イ 道徳コーナー「こころのまど」の設置

道徳における友達の見解や道徳に関する資料を掲示して、友達の良さや多くの感動体験を共感できるようにしている。

ウ 各種たよりの発行

学校だよりや生徒指導だよりを通して、保護者や地域の方々にも人権教育に関する本校の取り組みについて知らせ、理解啓発を図っている。

3 研究の成果

- (1) 「いじめ0運動」は、家族での話し合いからスタートしたことで、子どもたちだけでなく家族の思いや願いが込められた有意義な活動となった。のびのびタイムでは、縦割班の遊びを教えてもらうことを通して、下級生は素直に上級生の意見を聞くことができ、フォローアップを発揮することができた。
- (2) 地域と密着した継続的な体験活動を通して、周囲の方々の励ましやねぎらいの言葉をいただき、地域への愛着と感謝の気持ちをもつことができた。
- (3) 人権コーナーや道徳コーナーを進んで見る児童の姿が見られた。人権メッセージでは、人権について考えるよい機会となった。人権コーナーや道徳コーナーを設置することで、友だちの考えや思いを知り、自他の理解や尊重につながった。また、家庭で人権について話し合ったり、親子で人権メッセージを考える機会をもったりして人権教育への理解・啓発を図ることができた。

II 今後の課題

教職員の校内研修や、家庭・地域への啓発をさらに充実させて、学校・家庭・地域連しながら、人権教育を取り組めるように努めていきたい。また、ふだんから教室内の言語環境に気を配り、児童の人権感覚や人権意識をより高め育てていきたい。

各教科や道徳の時間などの学校教育全体を通して、人権に関する学習をより一層充させ、児童一人一人の人権意識を高め、実践できる態度を育てていきたい。

III <人権コーナー設置の様子>

○オアシス運動を啓発するための掲示

- ・おはようございます
- ・ありがとうございます
- ・しつれいします
- ・すみません

○人権メッセージの掲示をすることで、様々な考え方・物事のとらえ方に触れられる機会を作る。

